四方輿、被卷三方簾云々、

〔梅松論上〕後醍醐院を以、先帝と申奉り、承久の後鳥羽院舊規に任せて、隱岐國へ遷幸なし奉るべき由治定する間、〔略〕中御幸は六波羅より、六條河原を西に、大宮を下りにぞなし奉る、御先には、洛外にて召さるべき四方輿を舁せらる、都のうちは、御車の下簾を懸られて、武士ども關東の令に任て前後をかこみ奉る、

〔園太暦〕貞和四年八月十四日、明日放生會、上卿春宮大夫〔實夏〕藤原參向、雖未拜氏社、依別勅參向也、先先駕毛車、前驅幷布衣輩等召具人數也、而近日家僕等窮困、家中召具之、更不似先々、仍不守先規、不及毛車沙汰、駕四方輿、衣冠上結其人諸大夫光綱、仲康、光照、橘重貞、源康成、紀定業、侍都合八九人召具之、皆布衣上結也、

〔花營三代記下〕應永卅年十一月二日、自善法寺御社參、御淨衣、四方輿、力者十二人、白、

〔驢驢斷餘〕坂輿〔四方輿等ノ事也、山中ノ木ニカマウ故ニ、四方輿ノヤネヲ除テ、下バカリヲ坂輿ト云也、〕

〔輿車圖考三〕坂輿

四方輿にもかぎらず、手輿をも用ゆ、山坂なんどに、柱などありてはさはり多かれば、かくして用う、ゆへにかくば名づけしなるべし、

〔二水記〕永正十七年十一月廿八日、早旦參伏見殿、今日四宮御方〔彦胤親王〕御入室〔梶井〕御登山〔叡山〕也、〔中略〕

一御登山之事、本路雪裏難通、仍從ヤセ御登山云々、從山下乘御四方輿、〔四方簾悉垂也〕ヤセ童子奉舁也、山徒三百人許參御迎、使節□引具也云々、俗中從是乘坂輿、力者舁也云々、

〔撮壤集中輿〕網代〔アジロ〕　籧篨〔アジロ〕同

〔段注說文解字五上竹〕籧篨、逗粗竹席也、〔方言曰、簟、宋魏之間、謂之笪、或謂之籧篨、自關而西、或謂之簟、或謂之筯、其麤者、謂之籧篨、自關而東、或謂之蓋、郭云、

坂輿

網代輿